

令和7年度 東京都立石神井特別支援学校 学校経営計画

東京都立石神井特別支援学校長

中島 由美子

児童・生徒が、豊かに生きる力を育む教育を行うため、安全・安心な教育環境を整え、全校教職員が組織的に教育活動を展開する学校経営を行っていく。

今年度も児童・生徒の自ら学ぶ意欲を引き出し、主体的に学ぶ力や自立と社会参加するために必要な力を身に付けるための教育の充実を図り、教育課程を適正に実施していく。

I 目指す子供像（育てていきたい子供像）と学校像

教育目標

「一人一人が可能性を十分に掘げ、地域に根ざした生活の中で自立的な社会参加を目指す」

- ・ 健やかな心と身体を培う
- ・ 意欲的に活動する
- ・ 自ら考え、表現し、行動する
- ・ 豊かな人間関係を築く

目指す子供像

- 自分や相手のよさに気づき認め合う子供
- 意欲的にチャレンジする子供

教育活動全般を通じて、目標を達成する喜びを大人も共に実感する教育を実現していく。

目指す学校像

- 安全・安心な教育環境のもと、個別最適な教育を実施する学校
- 個別指導計画によるきめ細かな指導により、自ら意欲的に行動する力を育成する学校
- 自己肯定感を育む教育活動を重視し、キャリア発達を踏まえた成長を支援する学校
- 教職員が人権感覚を磨き、多様性を尊重し、共生社会の実現に貢献する学校
- 専門性に裏付けられた系統的な教育活動を展開し、児童・生徒の発達を支援する学校
- デジタル技術を活用した教育を推進し、情報発信する学校
- 体罰の根絶、いじめ・自殺未然防止、個人情報の保護など、危機管理の徹底と迅速な対応を図る学校
- 特別支援教育のセンター校として、通学区内関係機関との連携を推進する学校
- ライフ・ワーク・バランスを意識し、教職員が生き生きと働けるよう、働き方改革を推進する学校

II 中期的目標とその達成に向けた方策

	中期的目標	方策
学習指導	質の高いきめ細かな指導の充実を図り、個に応じた指導の充実を図る。	個別指導計画等をツールとして日常的に活用し、指導内容を可視化し共有する。

	知的障害教育や多様化する児童・生徒の障害特性に応じた教育の充実を図る。	外部専門員を活用し、障害特性に応じて構造化や視覚支援について整備・充実を図る。
	オリンピック・パラリンピック教育のレガシーを構築し、スポーツ、文化・芸術に係る教育活動を推進する。	スポーツ、芸術、日本の伝統文化等、学習した内容を発展的に継続できるようカリキュラム・マネジメントに努める。
生活指導	危機管理計画に基づき、児童・生徒の健康と安全の確保、危機管理機能の向上を図る。	児童・生徒の健康と安全を第一に、保護者や関係機関と連携し、組織的に危機管理の充実を図る。
進路指導	将来の自立に向け、一人一人の発達段階に応じた勤労観、職業観を育む。	高等部卒業後を意識し、体験を重視しながら、キャリア発達を踏まえた進路指導を推進する。
特別活動	児童・生徒一人一人の実態に応じ、教育活動により積み上げた学習の成果を発揮する。	体験的活動や行事等の工夫を図り、体育、文化・芸術教育を推進する。
健康づくり	児童・生徒の心身の健康や生活習慣の確立、体力向上、食生活の充実を推進する。	安心した環境の設定や食育指導、学校医との連携を行う。
センター的機能	特別支援教育のセンター校としての役割を推進し、支援の充実を図る。	コーディネーターを中心に、地域の保育園・幼稚園、小・中・高等学校との連携を推進する。
学校運営組織体制	知的障害教育における専門性の向上を図る。	組織的な授業研究、校内における研修活動や外部機関等を活用した専門研修を充実させる。
	業務効率化の工夫に努め、学校における働き方改革を推進する。	多様な工夫による業務遂行の円滑化を図り、教職員のライフ・ワーク・バランスを確立する。 校務のD X化、ペーパーレス化。
	人権尊重の理念に基づき、体罰の根絶、いじめ・自殺の未然防止、個人情報の保護等、危機管理の徹底を図る。	体罰やいじめ等に関するアンケートや防止研修を充実させ、危機管理体制を強化する。
	計画的、効率的な予算執行を行うため、長期的な予算計画を立案し、校内環境の改善を図る。	学校経営支援センターとの連携強化を図り、適切な予算編成、効率的な執行に努める。
	「東京都特別支援教育推進計画（第二期）第三次実施計画」や学級増に対応した施設・設備の整備及び教育課程の充実を図る。	都立学校教育部や指導部、支援センターとの連携を図り、今後の教育課題を見据えてビジョンを明確にするとともに地域関係者の理解を得ながら進める。

Ⅲ 今年度の目標と方策

1 教育活動の目標

学習指導	① 個別指導計画及び年間指導計画をツールとして活用し、特性に応じた指導内容の充実を図る。 ② タブレット端末等、デジタルを活用した教育、指導の充実を図り、教材開発を促進する。 ③ 自立活動、心理、発達障害、I C T等に外部専門員を計画的に活用し、学習指導の向上を図る。 ④ 芸術活動、言語活動・読書活動の充実を図る。
------	--

生活指導	① 感染症や熱中症等対策を行い、安全・安心な環境の構築に努める。総合的な安全教育を実施する。 ② 安全で安心なスクールバスの運行に向け、学校、保護者、スクールバス会社相互の連携を図る。 ③ 一人通学の実現に向けて、一人通学指導計画書を作成し、家庭と協力してきめ細かい指導を行う。
進路指導	① キャリア発達に応じた就業体験を行い、勤労観、職業観を育成する。 ② 保護者向け進路講演会等を企画し、就労等の学校卒業後の最新の進路情報を保護者へ提供する。 ③ 高等部との連携を図り、中学部生徒の高等部普通科への学校見学を実施する。
特別活動	① オリンピック・パラリンピック教育のレガシーを構築し、児童・生徒の興味・関心の幅を広げる。 ② 日本の伝統文化に触れる体験を通して文化への理解を推進する。 ③ 日常の教育活動の成果発表としての学習発表会や宿泊・校外学習の体験活動の充実を図る。 ④ 地域、近隣、関係機関等と連携し、SDG s の推進や社会貢献活動を行う。
健康づくり	① 医療的ケア、緊急時アレルギー対応について、安心・安全を確保できるよう組織的に対応する。 ② 精神科校医による療育相談の実施やスクールカウンセラーを活用し心身の健康づくりを推進する。 ③ 偏食や肥満の改善及び口腔衛生の向上に努め、健康な食生活と生活習慣の確立を支援する。
センター的機能	① 幼稚園、保育園、小学校、中学校、高等学校や学区を中心にして、特別支援教育の充実と理解啓発を図る。 ② コーディネーターを中心に通学区域内の関係機関と連携し、センター的機能を発揮する。 ③ 地域指定校と連携し、副籍制度における交流の充実を図り、地域の理解推進を図る。
学校運営 組織体制	① O J T チームによる授業研究を充実させ、教員の指導力向上を図る。 ② 知的障害教育における授業づくりの工夫について研究を深め、教員の専門性の向上を図る。 ③ 特性に応じた教材教具の開発や教材の共有化を図り、専門性、授業力の向上を図る。
	① 主体的に職務を遂行し、ライフ・ワーク・バランスを推進する。 ② デジタル等を利活用し、会議運営等の効率化や適正な進行管理、業務の精選を追求する。 ③ 服務事故の根絶及びいじめ防止研修を実施し、人権を尊重した指導への意識を醸成する。 ④ S N S 等の積極的な活用による情報提供を行い、「社会に開かれた教育課程」の実現を目指す。 ⑤ 産業医と連携を図り、職場環境の改善に努め、職員の健康管理・メンタルヘルス対策を推進する。 ⑥ 経営企画室の学校経営参画を推進する。 ⑦ 学校施設・設備の計画的な整備を行う。

2 重点目標とその達成に向けた具体的方策

目標や具体的方策	数値目標
1 学びを深める ～児童・生徒の自立と社会参画する力の育成～	
(1) 学習指導	
個別指導計画等における適切な目標設定、アセスメントに基づく効果的な指導方法・内容の充実を図る	個別指導計画作成・活用 100% 授業参観の満足度 80%以上
I C T 機器を活用した学習指導、教材作成を行う 児童・生徒が G I G A スクール端末を活用する力を育成する	全教員実施 保護者の満足度 80%

各専門分野の外部専門員を効果的に活用し、特性に応じた指導の充実に努める	計画的に年間 750 時間活用
芸術活動、言語活動・読書活動の充実を図る	図書室、地域図書館の利用率向上 PTAとの連携による図書整備 4 回
(2) 生活指導	
日常の感染症や熱中症等対策に努め、自ら身を守る教育を推進する 事故等の未然防止と緊急時の対応マニュアルの徹底を図る 避難訓練、防災訓練、緊急時の的確な対応訓練を実施する	ヒヤリハット報告による改善、事故 0 安全点検、注意喚起（通年） 関係機関連携 7 回以上
安全で安心なスクールバスの運行（全 12 コース）	毎日の連絡、スクールバス乗務員研修、連絡会の実施（毎月）
一人通学練習計画の充実、段階的な訓練の実施	実施者の一人通学指導計画の作成 100%
(3) 進路指導	
生活年齢に応じた人との関わり方、意思表示、選択する力の育成	個別指導計画・学校生活支援シート記載・活用、保護者の満足度 80%
中学部の就業体験学習、職場見学の充実	中学部 3 年間で 3 回実施
小学部の就業体験学習の充実	小学部 5・6 年生年各 1 回実施
保護者の進路指導についての理解促進	お便り発行（年 5 回）、保護者進路研修会の実施（視聴数 200 回以上）
(4) 特別活動	
学習発表会での日常の教育活動の成果発表	保護者満足度 80%以上、参観者 300 名
事前・事後学習を活用した宿泊学習、校外活動・遠足の充実	全安全実施
オリンピック・パラリンピック教育のレガシーを構築し、体育的、文化・芸術的活動・行事の充実	外部講師招へい 7 回、ボッチャ体験、芸術鑑賞教室、体験プログラムの実施
(5) 健康づくり	
医療的ケア、食物アレルギー対応等の安全実施。医療的ケア安全委員会・実務研修、アレルギー対応訓練・研修会の実施	指導医からの助言 2 回、アレルギー個別面談の実施（希望者全員）
SCや精神科校医を活用した心身の健康づくりの推進	精神科療育相談 10 ケース以上 SCへの相談（随時）
食育の推進、健康増進・体力向上のための取組	食育に係る情報配信（給食だより、図書室掲示）、給食時毎回献立紹介
2 つながり築く ～地域の学校としての使命・貢献～	
(1) センターの機能の発揮 ・幼稚園、保育園、小学校、中学校、高等学校等への特別支援教育の推進への支援・助言、巡回訪問の実施 ・近隣校との交流教育・副籍交流の充実	要請に応じ実施 連絡会・委員会等への参加（通年）
	学校間交流（各学部 2 回） 副籍交流（通年・40 件）

・放課後活動事業所等との連携、支援会議の実施	通年
(2) SDGs、社会貢献活動に関する取組の実施、地元企業との連携	保護者、地域、関係機関等と連携した活動の実施、校外への作品展示5回
3 組織力を高める ～チーム学校が機能する学校経営、組織の構築～	
(1) 的確な情報共有による教職員の協働の推進、報告・連絡・相談の徹底	通年、教員の満足度 80%
(2) 専門性の向上 ・主体性を育む国語・算数/数学の授業研究 ・OJTチームによる研究授業、研究協議会の充実、教科会の活用 ・SC、外部専門員（自立活動・心理・発達・情報等）を活用した指導力の向上 ・発達段階に応じた教材・教具に関する研修会実施、共有教材の活用 ・デジタル技術を活用した教育の推進のための教員研修 ・学び続ける教師、自己研鑽の推進	アセスメントを活用した授業実践 外部講師による研修会（3回）
	年次研者の研究授業・協議会3回 全員1回以上研究授業の実施
	教材貸出（通年）夏季教材展
	専門家活用、全体研修会2回以上 適時
(3) ライフ・ワーク・バランスの推進 ・主体的な業務遂行の推進。ノー会議デー、定時退勤日、学校閉庁日の設定・促進による計画的業務遂行の推進、時間外の在校時間縮減 ・機能的・効率的なライン化による組織運営、会議運営の効率化と適正な進行管理、校務のDX化、学校評価を活用した組織改善を図る。	ノー会議デー（月2回）、全校定時退勤日（月1回）、My 定時退勤日の設定、学校閉庁日（5日）
(4) SNS等による学校広報、効果的な保護者との情報の共有、Classiによる通知文書の電子配布と目的に応じた紙配布を行う。	学校・学年だより、HP、X等による情報発信、200回以上、電子によるアンケート調査回収
(5) 体罰・いじめ・自殺防止研修、情報セキュリティ研修、学校徴収金等の取扱研修、服務事故防止研修の実施	年間5回以上、事故0
(6) 産業医と連携した職場環境点検、教職員の健康管理・メンタルヘルス対策の推進、職員検診・人間ドック受診率の向上	健康相談の実施（毎月） 安全衛生委員会の開催（毎月） 健康診断の受診率100%
(7) 適正な予算編成と計画的な予算執行の管理	一般需要費の執行率98%
学校施設・設備の計画的な整備	企画調整会議等での確認・実施
4 未来を創る ～時代に応じた新しい教育のスタイルへの変革、学級増や改築を見据えた教育・施設～	
教育課程/施設整備プロジェクトチームの設置・運営	進捗報告（月1回）
週時程と各教科、社会とつながる職業・作業学習の見直し	学部・主幹会議の活用
SDGSの推進、社会に開かれた学校としての情報発信	デジタルを活用した発信
ウェルビーイングの向上に向けた取組	通年